令和8年度　文京区アカデミー推進協議会
第2回分科会（文化芸術分野）概要記録

日時	令和8年7月 31 日（金） 18:31～20:25
会場	文京シビックセンター17 階　福利健康会議室
出席委員	垣内恵美子委員◎、髙澤芳郎委員、牧野恒良委員、野村美奈委員、 宮本長範委員、篠塚麻衣子委員、篠原秀徳委員、髙橋明弘委員、小木貢委員 （座長◎）
欠席委員	なし
事務局	吉本アカデミー推進課長、金子アカデミー文京所長（シビックホール館長）、 眞野アカデミー推進係長、髙見文化事業係長、玉田文化資源担当室長（ふるさと歴史館長）
資料	次第、資料第1号　施策体系（案）について、 参考資料第1号　文京区アカデミー推進協議会　分野別分科会名簿
（議事） 1　議題 ○委員意見 ◆事務局説明	1．施策体系（案）について 分科会資料第1号に基づき、基本理念～基本方針について説明。 ① 基本方針1「だれもが楽しめる機会の創出」について 分科会資料第1号に基づき、基本方針1の施策について説明。 ○区民との触れ合いや認知度が不足している。オーケストラのリハーサル公開など、区民が気軽に文化芸術に触れる機会を積み重ねることが重要だと思う。 ○こども向け体験イベントは好評だが、一過性で終わらせず次の参加に繋げる工夫が必要である。計画の文言も主体的に考えられる簡潔な表現が望ましい。 ○アートウォール等で制作者の思いや背景を伝える展示や、街中で障害者アートに触れる機会を増やすことで、活動や交流の広がりにつながると思う。 ○「触れる」を「利用する」などの能動的な表現とする検討をしてはどうか。ふるさと歴史館等は満足度が高い一方、来館者数が少ないため、情報発信の強化が必要である。 ◎「触れる」は受動的な体験も含む言葉としてよく使われるが、誤解のない表現を検討されたい。文化芸術は経験して価値の分かる「経験財」であり、こどもや保護者へのアウトリーチやエンゲージメントの強化が重要である。 ○表現だけでなく、具体的な施策が重要であり、障害等により来館できない人

	への出向くアウトリーチをより重視すべきと考える。 ○「区内まるごとキャンパスに」と基本方針との関係が伝わるよう工夫するとよいと思う。また、リハーサル公開や参加者の声などの魅力あるコンテンツをSNSで継続的に発信すべきである。 ○「障害者アート」は、自立や共生、陽気で楽しいという意味を持つ「コンビビアート（Convivial Art）」といった、親しみやすく前向きな名称を提案したい。 ○見学会や発表会、チラシ配布はこどもや家族に有効である。文化施設の中学生以下無料制度なども、積極的に周知してはどうか。 ◆「まるごとキャンパスに」は生涯学習から発展した経緯があり、方向性の変更は難しいが、情報発信の見せ方や表現は意見を踏まえて検討したい。区の文化施設は、中学生以下無料となっているため、効果的な発信に努めたい。 ② 基本方針2「文化芸術をささえる人材育成と環境整備」について 分科会資料第1号に基づき、基本方針2の施策について説明。 ○芸術団体の継続に人材育成と資金確保は不可欠であり、企業等も巻き込んだサポーターづくりや資金循環の仕組みを計画に位置付けてはどうか。 ◎持続可能な活動にはサポーターが重要であり、クラウドファンディングや企業メセナ、顕彰制度なども有効と考える。 ○伝統芸能の継承には趣味として支える人材も重要である。稽古人口を増やすため、稽古や技術向上への支援策が必要である。 ○助成金を活用した地域で共同の小規模アートイベントなど、少ない資金でも交流や連携を生み出す工夫ができるのではないか。 ○高齢者クラブの会員減少や趣味の多様化が進む中、伝統工芸・伝統芸能を継承する具体策が必要である。 ○学校や PTA が地域の文化芸術団体や人材と容易につながれる仕組みを区に整備してほしい。部活動の地域移行では、指導者確保や学校間格差への不安があるため、地域と学校をつなぐ仕組みを整備してほしい。 ○人材育成だけでなく、団体の運営や広報、会計など、活動を継続するための仕組みづくりや連携支援を、行政が行うべきである。

	○ふるさと納税の活用や、若年層の継続的な文化活動を評価する表彰・認証制度を設けることで、参加意欲を高められるのではないか。 ◆既存制度の活用を含め、支援や連携のあり方を計画策定の中で検討したい。大学を含めた学校との連携についても、関係部署と調整したい。 ③ 基本方針3「文化資源を活かした取り組みの強化」について 分科会資料第1号に基づき、基本方針3の施策について説明。 ○芸術団体が魅力ある文化資源となれるよう活動を磨き、区内の文化資源との連携企画にも積極的に協力したい。 ○まち歩きなどにより、能楽堂など地域の文化資源の認知度向上や、体験へと繋がる仕組みを強化してほしい。 ○高齢者には区報など紙媒体の情報発信が有効であり、デジタルと紙媒体をバランスよく活用すべきである。 ○スマートフォンを利用しない高齢者も多く、紙媒体は重要である。高齢者クラブとしても、文化芸術活動の周知に協力したい。 ○学校経由のチラシは、保護者にとって重要な情報源である。こどもたちが、公平に文化施設であるシビックホールを利用できる環境を維持してほしい。 ○文京アカデミーの広報紙や公演、連携事業も文化資源であり、区民が足を運ぶきっかけとなるよう連携したい。 ○飲食を取り入れた企画や屋外イベントなど、気軽に参加できる文化イベントを継続的に実施してはどうか。 ◎飲食などエンターテインメント要素を取り入れた施設活用は、親しまれる文化施設づくりに有効である。 ○文化芸術は人格形成にも重要であり、学校教育等と連携し、文化的素養を育む基礎的な学びを充実させる必要がある。 ◎観光協会のホームページなど、既存サイトとの役割分担や連携等の整理が重要である。施策体系（案）は、本日の意見を踏まえ調整することで概ね了承とする。
2 閉会	